

チーム内での立場と学習意欲 (2) —複数の少年サッカーチームにおける比較検討—

名取洋典 (医療創生大学)

キーワード: 少年サッカー, 動機づけ, 継時的調査

問題と目的

チーム内での立場の違いを超えた「一体感」が生まれることで、チーム全体の意欲が高まったというような逸話を聞くことがある。

本研究では、チームの中での立場の違いにより、活動に対する学習意欲に違いがみられるのかを明らかにすることを目的とした。

名取 (2019) の 3 回行われた継時的な調査の結果、自身のことをレギュラー選手だと自覚している競技者とそれ以外の競技者の学習意欲では、(1) 有能感は一貫して、レギュラーの方が高いこと、(2) 困難の克服は後半では、レギュラーの方が高いこと、一方、(3) 1 回目の調査では、レギュラーの方が低かった不安は、2 回目、3 回目では、むしろレギュラーの方が高くなっていったことが示された。今回は、複数のチームを対象として、これらの結果が再現されるかどうかを検討した。

方 法

調査対象者および調査時期

5 つの少年サッカーチームに所属する小学 5, 6 年生を対象とした。調査は、2019 年 4 月から 2020 年 2 月まで、2 ヶ月に 1 回、計 6 回行った。今回は、1 回目 (4 月, 67 名)、2 回目 (6 月, 53 名) および、5 回目 (12 月, 51 名)、6 回目 (2 月, 42 名) のすべての調査に参加したチームのデータを分析の対象とした。

調査内容

基本属性 性別と年齢に加え、ポジション (FW・MF・DF・GK・決まっていない) と出場機会 (レギュラー・サブ・試合によっていろいろ) を尋ねた。

サッカーにおける学習意欲 名取 (2019) が、西田 (1989) が作成した項目を変更して用いたのと同じ尺度項目を用いた。(1) 学習ストラテジー、(2) 困難の克服、(3) 学習の規範的態度、(4) 運動の有能感、(5) 学習の価値、(6) 緊張性不安、(7) 失敗不安という 7 つの下位尺度について各 4 項目の 28 項目 (5 件法) で測定した。

調査期間および手続き

2019 年 3 月に調査趣旨の説明をした上で、協力に同意を得た 5 つのチームの代表者に、調査対象者分の調査用紙を郵送し、実施とチーム内での回収および返送を依頼した。内、2 チームは事情により、1 回目の調査のみ返送された。

倫理的配慮

いわき明星大学 (現医療創生大学) 研究倫理審査委員会の承認を得て行った (承認番号 15-05)。

結果と考察

各回のサッカーにおける学習意欲の 7 つの下位尺度を従属変数、立場 (レギュラー・非レギュラー) とチーム (チーム A・チーム B・チーム C) を独立変数とする、 2×3 の二要因分散分析を行った。すべての分析において、有意な交互作用はみられなかった。

4 月は運動の有能感への、立場の有意な主効果 ($F(66, 1) = 12.77, p < .001, \eta^2 = .17$) のみがみられた。レギュラーの有能感は、それ以外の競技者に比べて高いことを示す結果であった。6 月においても、運動の有能感への、立場の有意な主効果がみられた ($F(66, 1) = 12.77, p < .001, \eta^2 = .17$)。ここでも、レギュラーの有能感は、それ以外の競技者に比べて高いことが示された。しかし、有能感以外に立場の有意な主効果はみられなかった。

一方で、チームの主効果は、6 月、12 月の学習ストラテジーにおいて有意 ($F(52, 2) = 3.88, p = .028, \eta^2 = .14$; $F(50, 2) = 7.67, p = .001, \eta^2 = .30$) であった。また、6 月、12 月、2 月の学習の価値への、チームの主効果も有意であった ($F(52, 2) = 9.96, p < .001, \eta^2 = .30$; $F(50, 2) = 17.54, p < .001, \eta^2 = .44$; $F(41, 2) = 13.26, p < .001, \eta^2 = .44$)。多重比較を行った結果、チーム A に比べて、チーム B、チーム C の得点が高い傾向が示唆された。加えて、12 月の困難の克服、学習の規範的態度への、主効果も有意であった ($F(50, 2) = 3.69, p = .033, \eta^2 = .14$; $F(50, 2) = 6.23, p = .004, \eta^2 = .22$)。チーム A に比べて、チーム B の得点が高いことを示す結果であった。

今回の結果からは、チーム内での立場の違いよりも、チーム間の違いが、活動に対する学習意欲に、大きく影響することが示唆されたと考えられる。

引用文献

名取洋典 (2019). チーム内での立場と学習意欲—少年サッカーチームにおける検討— 日本教育心理学会総会発表論文集, 61, 259.

西田 保 (1989). 体育における学習意欲検査 (AMPET) の標準化に関する研究—達成動機づけ論的アプローチ— 体育学研究, 34, 45-62.

付 記

本研究は JSPS 科研費 JP15K16457 の助成をうけたものです。